

平成30年 6月 6日
岐阜県立飛騨高山高等学校
国土交通省高山国道事務所

ビオトープ“飛騨の森再生”におけるチョウ類調査 ～飛騨高山高校の2年生が今年度最初の環境学習～

1. 概要 : 高山西IC内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”において、平成22年度から飛騨高山高校生徒が環境学習を実施しています。
今年度2回目の実施になる今回は2年生生徒6名が、初夏に見られるチョウ類の捕獲・識別実習を行います。
2. 日時 : 平成30年 6月11日(月) 14:00～16:00
【予備日 6月18日(月) 14:00～16:00】
3. 場所 : 中部縦貫自動車道高山清見道路 高山西インターチェンジ内
ビオトープ“飛騨の森再生”(高山市清見町牧ヶ洞地内)
4. 参加者 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 環境科学科 2年生6名
5. 添付資料 : 別紙1～3のとおり
6. 配布先 : 高山記者クラブ
7. 問合せ先 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 山田キャンパス
環境科学科 原 康彰(はら やすあき)
TEL 0577-33-1060
FAX 0577-32-8994

国土交通省中部地方整備局 高山国道事務所
計画課長 奥田 清典(おくだ きよのり)
TEL 0577-36-3822
FAX 0577-36-3801



高山西 I C ビオトープ “飛驒の森再生”

1. ビオトープ“飛驒の森再生”整備

中部縦貫自動車道高山清見道路の建設により、動植物の生息・生育環境が分断され、従来の自然環境が大きく変化する可能性があります。そのため、インターチェンジ内を『飛驒の森再生』として位置付け、調整池の自然利用及び周辺植生の遷移促進を含めた計画をし、平成16年11月に高山清見道路（飛驒清見 I C～高山西 I C）の供用と同時にビオトープが完成しました。

さらに、平成22年7月には、飛驒高山高等学校と高山国道事務所で「維持管理に関する協定」を締結し動植物の生息・生育環境創生に取り組んでおります。



整備直後(H16. 11)



現在の生育状況(H30. 5)

2. 現在のビオトープの状況

完成してから13年が経過した調整池を含むインターチェンジ内の環境は大きく改善し、ビオトープに移植した根株・貴重植物ともに生育状況は良好です。また、周辺域から在来種も入り、ビオトープ内は調整池や植生の変化に併せて、両生類（カエル）や昆虫類（トンボやバッタ）などの定着も順調に進み、生物の多様化が進んでいます。

また、同校との協働による継続的な維持管理活動により、貴重な植物が繁殖又は再確認されるなど、様々な動植物の生息・生育環境が維持されています。

確認された重要種など

陸域



移植した重要種
(キキョウ)

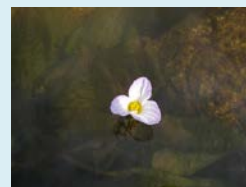


確認された重要種
(マルタンヤンマ)

水域



確認された重要種
(モリアオガエル)



確認された重要種
(ミズオオバコ)

3. 学習内容

今回は、環境科学科2年生6人が参加して、ビオトープ内において、初夏に見られる昆虫類（チョウなど）の観察を行います。

チョウの仲間は昆虫の中でも生態や生息環境が比較的良好にわかっており、調査の際にも見つけやすく、その場で種名を調べることができる生物です。こうした性質からチョウの仲間は環境を状況を確認する指標として使われることがあります。

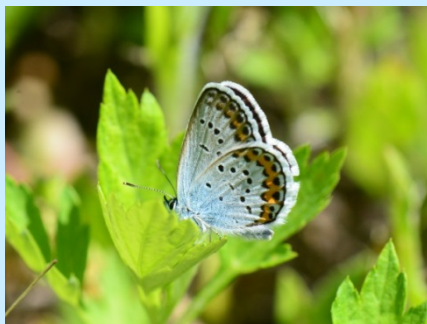
チョウ類の採集・識別実習

今回の学習では、チョウの採集方法を学ぶとともに、確認できたチョウを用いて現在のビオトープの陸域の植生環境を確認します。

昨年度の学習状況(平成29年6月12日実施)



昆虫類の採集



採集したチョウ(ヒメシジミ)



採集した昆虫類の識別

高山西ICのビオトープで見られるチョウ類

●森林性

森林的な環境(広葉樹林、針葉樹林、植林地、河畔林、薪炭林)を好む種。幼虫が樹木の葉を食べて育ち、成虫の活動場所に森林を伴う。



【ゴイシジミ】

●林縁性

森林の周辺の環境(疎な林や森林周辺の草地)を好む種。幼虫が森林周辺に生育する植物を利用する。



【オオウラギンスジヒョウモン】

●草地性

草原的な環境(火山性荒原、河川の堤防や草地、耕作地)を好む種。幼虫が草の葉を食べて育ち、成虫の主な活動場所が草地である。



【ツバメシジミ】



【コムラサキ】



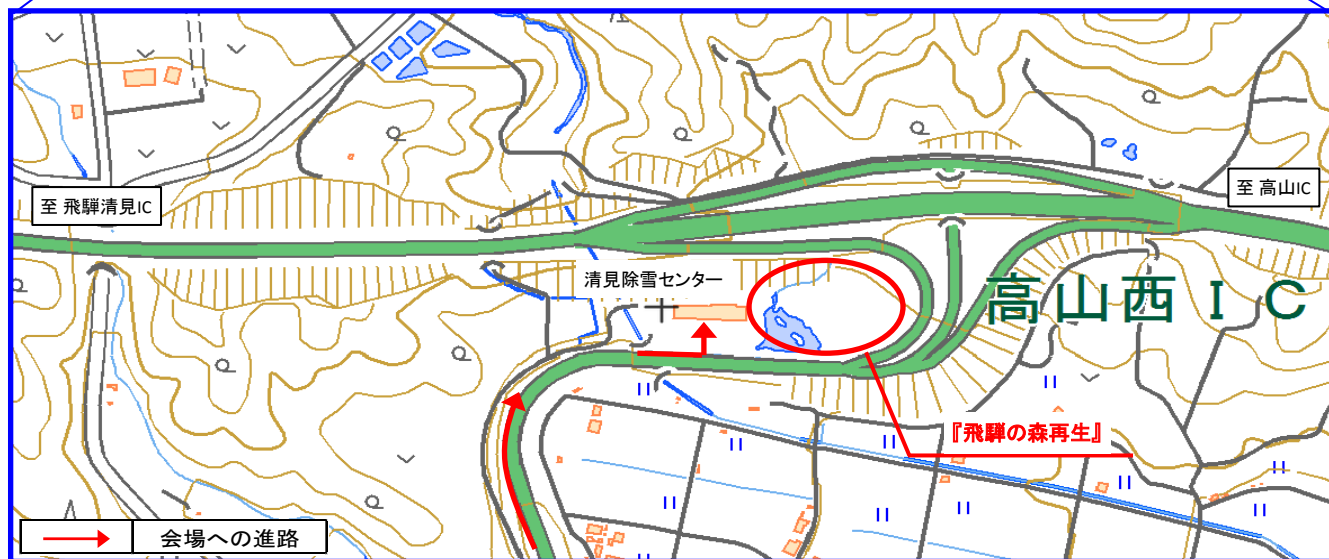
【キチョウ】



【モンキチョウ】

環境学習 実施位置図

実施場所：高山西IC内 ビオトープ「飛驒の森再生」



取材希望がございましたら清見除雪センターにお集まり下さい。